

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和3年10月16日 報告者：岩田 英紘

行事種別	基礎講座	行事番号	210007145	
開催日	オンデマンド配信：令和3年10月1日～10月9日 ライブ配信：令和3年10月9日			
時間	開始	14:00	終了	16:00
場所	Web開催（オンデマンド配信+ライブ配信）			
テーマ	がんゲノム医療のあいうえお ～臨床検査技師が知っていたほうが良い知識～			
生涯教育履修点数	専門教科 20点（ライブ配信に参加した会員にのみ付与）			
司会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 岩田 英紘			
講師	<input type="checkbox"/> オンデマンド配信（令和3年10月1日～10月9日） 講演 1. がんゲノム医療とは 愛知県がんセンター病院 柴田 典子 講演 2. 遺伝子基礎とバリエーション 藤田医科大学 大江 瑞恵 講演 3. がんゲノム医療における相談支援の実際 名古屋大学医学部附属病院 地域連携・患者相談センター 黒柳 佳代 講演 4. がんゲノム医療と二次的所見への対応 名古屋大学医学部附属病院 ゲノム医療センター 森田 真未 講演 5. アノテーション及びキュレーションおよび事前課題出題 三重大学医学部附属病院 池尻 誠 <input type="checkbox"/> ライブ配信（令和3年10月9日） ・事前課題に対するグループディスカッションおよびグループ発表 ・事前課題解説 三重大学医学部附属病院 池尻 誠			

<p>内 容</p>	<p>今回の基礎講座は、先行してオンデマンド動画にて5つの講演を配信し、これらの動画を参考に事前課題に取り組んでもらい、後日のライブ配信にてグループディスカッションと講師による解説を行った。</p> <p>オンデマンド配信の講演1では、本邦におけるこれまでのがん遺伝子パネル検査実装の流れを、講演2では、遺伝子変異の種類とバリエーションの表記方法、生殖細胞系列と体細胞系列の違いを、講演3では、がん専門相談員が対応する相談や対応について、実際の事例を紹介しながらよくある相談事例や患者と接する上での注意点を、講演4では、パネル検査での2次的所見や遺伝カウンセリングでの対応を、講演5では、パネル検査でのレポートを読み解くために必要なアノテーションやキュレーションの意味とその手法を、それぞれ講演いただいた。</p> <p>事前課題は、4症例準備した。それぞれの症例について、臨床経過や家族歴、パネル検査のレポート結果などを提示し、使用できる治療薬や参加可能な治験、開示すべき2次的所見はあるかを考えてもらう内容で作成した。</p> <p>ライブ配信では、事前課題についてグループディスカッションにて活発な意見が交わされ、講師の解説後も、集合形式と同じようにリアルタイムで質疑応答が行われた。今回の参加者は、がんゲノム医療にすでに関わっているという方は少なく、純粋にこの分野に興味がある、もしくは今後必要になる可能性が高いから勉強したいという理由で参加された方が多かった。今回の基礎講座では、ゲノム医療の全体像から、結果が出るまでの流れやレポートの解釈、患者への対応まで、実際に臨床検査技師ががんゲノム医療に関わる上で必要とされる知識について、参加者のレベルにあった有意義な情報を提供できたと考えられる。</p>
<p>参加者</p>	<p>総数：47名（会員45名）</p>
<p>共催、後援など</p>	<p>特になし</p>

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和3年12月21日 報告者：岩田 英紘

行事種別	講演会	行事番号	210008393	
開催日	令和3年11月13日(土)～11月26日(金)			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	Web開催(オンデマンド配信)			
テーマ	最先端の遺伝子検査とがん治療			
生涯教育履修点数	専門教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)			
司 会	オンデマンド配信のため司会は設定せず			
講 師	<p>講 演 1：「遺伝子検査の将来～リキッドバイオプシーはここまできた～」 川谷豊田総合病院 伊藤 英史</p> <p>講 演 2：がんゲノム医療におけるリキッドバイオプシーの近未来像 愛知県がんセンター 薬物療法部 医長 谷口 浩也</p>			
内 容	<p>本講演会は、リキッドバイオプシーをテーマとしたがんゲノム医療に関わる内容ではあったが、病理検体ではなく血液検体を用いて実施される検査であるため、病理分野の方だけではなく、血液検査や生化学検査など幅広い分野の方々が参加した。</p> <p>講演1では、リキッドバイオプシーの歴史、解析対象について紹介された。世界におけるリキッドバイオプシーの市場規模は急拡大し、2020年と比較して2028年では5.7倍にまで増加すると見込まれている。また、解析対象として「血中循環腫瘍細胞」「血中循環遊離RNA」「血中循環腫瘍DNA(ctDNA)」 「マイクロRNA(miRNA)」が紹介され、それぞれの特徴と診断精度、測定原理を解説いただいた。</p> <p>講演2では、ctDNAを用いた包括的がんゲノムプロファイリング(CGP)の意義について述べられた。従来の病理組織検体と比較したctDNAによるCGPの利点には、低侵襲、短いTAT、Heterogeneity克服が挙げられる。一方で、感度やFusion検出に関してはやや劣る欠点がある。しかし、病理組織検体とctDNAは相互補完的であり、一致率をゴールとしないことの重要性を示された。さらに、治療後の微小残存病変検出用のctDNA検査は、病理組織検体では代用不可であり、真の個別化治療の実現と早期治療による生存延長・治癒率向上が期待されるとのことであった。</p> <p>がんゲノム医療におけるリキッドバイオプシーの有用性や近未来像について、興味深い情報が提供され、参加者にとって非常に有意義な講演会であった。</p>			
参加者	総数：120名(会員120名)			
共催、後援など	特になし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和4年3月6日 報告者：岩田 英紘

行事種別	研究会	行事番号	210015010
開催日	令和4年2月12日(土)～25日(金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web開催(オンデマンド配信)		
テーマ	令和3年度愛臨技精度管理報告、認定臨床染色体遺伝子検査師の紹介		
生涯教育履修点数	基礎教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)		
司会	オンデマンド配信のため司会は設定せず		
講師	<p>講演1：令和3年度愛臨技精度管理報告 豊橋市民病院 濱田 智博</p> <p>講演2：認定臨床染色体遺伝子検査師～染色体分野～ 胎児生命科学センター 鈴木 翔太</p> <p>講演3：認定臨床染色体遺伝子検査師～遺伝子分野～ 富山大学附属病院 杉江 和茂</p>		
内容	<p>本研究会は、今年度に精度管理事業として実施したHER2-FISH検査の調査報告と、認定臨床染色体遺伝子検査師の紹介の内容で企画した。認定資格については、資格を取得されている2人の講師(染色体分野・遺伝子分野)にご紹介いただいた。腫瘍遺伝子検査を実施している病理分野の方だけではなく、全国から血液検査や生化学検査などを実施している幅広い分野の方々に参加した。</p> <p>講演1では、HER2-FISH検査の調査報告の中で、特に正解率の低かった設問について解説された。アンケート結果の中ではサンプルサーベイの要望が多く、来年度以降の精度管理調査の展望についても言及された。</p> <p>講演2・3では、染色体分野・遺伝子分野それぞれの認定臨床染色体遺伝子検査師についてご紹介いただいた。資格の目的や到達目標、実際の試験を想定した例題などが提示された。また、試験に頻出される培養法や分染法、染色体核型記載、DNAマイクロアレイ解析についても解説された。最後には、認定技師の役割・存在意義として、認定技師それぞれが検査精度を保証する指標となることで、染色体・遺伝子検査の標準化に繋がるとのお考えを示された。今後、認定臨床染色体遺伝子検査師の取得を目指す参加者にとって、非常に有意義な研究会であったと考えられる。</p>		
参加者	総数：77名(会員77名)		
共催、後援など	特になし		